



森の守護神

森ボラ 通信

第165号 2016年2月20日発行

NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <http://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6 ラルズビル3F

Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

トピックス

追悼 河村征治 理事

高野 豊

2016年1月10日、当協会理事の河村征治氏が逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

訃報に接して「やっぱり駄目だったか——」との思いでした。10年以上も心臓に病を抱えて苦しんでいたのを知っていたからです。徐々に衰えていく様子も感じていました。しかし、本人からは弱音の一言も聞いたことはありません。強い人でした。この一文を書くのは不本意ですが、氏に謝意を表し、称えることは本意であります。

河村氏なかりせば当「森林ボランティア協会」は生まれていません。設立5周年記念誌の巻頭言の横山理事長の記事にあるように横山・河村の両氏が設立し主催していた異業種交流組織「テーマスクラブ」の高齢者問題懇談会の中で社会貢献事業として「森林ボランティア」が発案されました。さらに同誌4ページで河村氏自身により「森林ボランティア設立の経緯」が詳しく報告されています。



河村理事

ボランティア組織づくりに際しての人事は、河村氏のアドバイスに依りました。横山理事長も河村氏の依頼でなければ実現しなかったでしょうし、代表幹事の人選もそうでした。

思えば昭和32年(1957年)北大恵迪寮入寮時に横山・河村+高野の縁が始まりました。河村氏と高野は同期入寮ですが、1年先輩の横山氏は入寮時の選考委員長でした。入寮面接があつて新入候補者は一人ずつ面接会場に入ります。ずらりと周りを選考委員に囲まれます。その正面に和服を着た横山委員長が座っていました。その迫力と貫禄に圧倒された記憶は今も鮮明です。河村氏も同じ思いだったと後に語っていました。河村氏は林産学科、私は林学科で合同講義の場もありましたが、寮や講義の場では殆ど接触はなかったのです。河村氏は学生運動や北大生協、私はアルバイト等で忙しかつたのです。

河村氏は大学を出てから札幌市民生協を立ち上げて以後退任するまでに改名したコープさっぽろを育てあげてきたことは周知のことです。私が50歳を期して札幌にリターンしてきた時、事業会社を登記し、河村氏に挨拶にゆきましたところ、「今から事業を始めても成功する確率は100に1つもない、そんなことより、生協の仕事を手伝え」との勧誘をうけました。「身体障害者を雇用する義務が生じた、雇用の場としてクリーニング工場をつくり、外注している制服や足拭きマットを自社で洗うことにしたい」とのことでした。面白そうなので早速設立したばかりの会社を閉めて、河村氏の意向に従うことにしました。結果はサービス事業部を任せられ、旅行事業、支笏湖レクサイドホテルや青山農場の管理等々、60歳の定年までの10年間にクリーニング工場と積丹のリゾートホテルも立ち上げる仕事をさせていただきました。中国旅行に随行した際、大連の旧日本人居住区で「これが俺の家だった」との旧宅を見た記憶が蘇ります。

私の定年退職とほぼ同時期に河村氏もコープさっぽろを追われるごとく退任しました。その後パブリックセンターの戸沼社長らと株CWEを立ち上げ、事業活動をしていました。そんな中、私も自由な立場でCWEの仕事を手伝っていましたので、テーマスクラブにも首を突っ込ませていただいていたのです。バブルがはじけた大不況の最中パブリックセンターの倒産とともにCWEも消滅いたしました。テーマスクラブは存続して今日に到ります。50歳だった1987年4月から78歳を迎える2016年1月までの約28年余を河村氏の近くで過ごしてきたのは幸運でした。

河村氏と横山氏は大規模小売業として同じ土俵での長年の敵であったにも拘わらず、プライベートでは仲が良く一緒によくお酒を飲み交わっていたのです。そんな場面に私は幾度も同席したことがあります。そして二次会、三次会と寮歌や軍歌を歌いあつたことでした。

告別式場で友人代表として弔辞を読んだ柴野直行氏は中学、高校、大学ともに同期同窓で当協会発起人の一人です。柴野氏を含む私の知る函館中部高校の同期生たちは異口同音に「河村は開闢以来の秀才だった」と言います。近くにいた私も、さもありませんと感じたことはしばしばでした。告別式場には河村時代の「コープさっぽろ」の幹部たち多数の顔がありました。事業不振の責任を独り背負って去る形ではありましたが、今にして思えば、あの拓銀ですら潰れたバブル破裂後の不況時であれば、やむない状況だったと思います。「コープさっぽろ」は今健在です。その基礎を築いた河村氏の足跡は偉大です。

私個人として受けたご厚誼に深く感謝しています。お世話になりました。ありがとうございました。安らかにお休みください。おっつけ私も逝きます。又、冥土で寮歌を一緒に歌いましょう。 合掌。

◆冬期セミナー講演—オシドリ—

2016年1月13日の冬期セミナーは「オシドリのいる森」と題する新田啓子さん(NPO 法人真駒内・芸術の森緑の回廊基金事務局長)による講演でした。以前に当協会会員だったこともあり、自然愛護に対するなみなみならぬ情熱を承知してはいましたが、今回のオシドリの話で一層その感を深めることになりました。主婦の立場でありながら、繁殖期間限定とはいえ、朝夕の観察を毎日続けることは驚きとともに敬意を表する次第であります。



真駒内曙中学校校庭のハルニレの巨木に営巣するオシドリとエゾモモンガのことはNHK テレビを見て知ってはいましたが、その繁殖の状況観察を毎年継続し、さらに札幌市内の他の繁殖状況まで拮げた記録まで画像や動画をまじえて報告されました。

特には孵化したばかりの雛たちが巣穴の樹洞からつぎつぎといきなりダイブして落葉もない硬い校庭の地面に激突しバウンドして起立するやいなや母親に走りより、密集隊

形で水場へ移動する健気さは感動ものでありました。身体の構造が落下の衝撃に耐えられるように出来ていることがわかる自然の驚異の場面であります。

オトジリやアヒルを含むカモ目やギシヤニワトリを含むキジ目の雛たちは親から給餌されることはありません。誕生直後から自分で採餌するように出来ているのです。親は餌のある場所に連れてゆくだけなのです。もちろん外敵や寒さからわが子を護るのも親の役目です。

水鳥でありながら地上の天敵を避けての選択と理解しますが、体長41センチ、体重0.5キログラムの♀が抱卵可能な樹洞ができる樹木は胸高直径が1メートルをこえる老木でなければ出来ません。そんな巨木は札幌周辺でも限られた本数であることは、以前に実施した巨木調査で体験していますから、巣穴探しは育雛水場まで遠くない場所にある老巨木だけをチェックすればいいので、案外簡単かもしれません。おそらくオシドリ仲間内では既存の巣穴は周知されていると推測いたします。

地域的分布は日本の他、ロシア南東部、台湾、中国とかなり広いのです。

澄川森林でオシドリを見かけたことはこれまでにありません。理由は樹洞のあるほどの老木がないこととあわせ、水場らしきものはあるにせよ狭くてキツネやテンのような天敵に対応するのが難しいからだと思われます。(文・高野)



◆「道民の森」運営連絡会に参加して

道民の森は当別町と月形町にまたがり6つの施設区で構成され1,244haを有し道が管理する豊かな森です。近年利用者の減少で平成25年に「道民の森」活用及び整備検討委員会が「北海道森づくり基本計画」を作成し「協働の森づくり」の活動拠点とすることを提言しました。今回の運営連絡会は「道民の森」が「協働の森づくり」の拠点となるよう「森に学ぶ」機能を充実強化し利用者を平成37年までに平成25年の17万人/年から20万人にするための準備委員会で1月19日に一回目が開催されました。一人でも多くの人に道民の森が保有している機能を再認識して貰えるよう、

現状に即した改善策や情報発信の在り方を再構築して「道民の森」の活用化に繋げる事を目的としています。会議の中では北海道森林ボランティアが培って来た経験やノウハウ等を提案して行きます。会員の皆さんかからもご意見を頂き連絡会で繁栄させて行きますのでご協力をお願いします。

(文・事務局)

◆チェーンソー講習に参加して

1月12日・13日の両日、コマツ教習所(株)北海道センターで開講された「伐木等の業務(則第36条第8号)」を受講して来ました。両日とも朝8時～夕方6時半まで、計16時間に及ぶハードな受講内容。特に講義形式はひとコマ90分と、さながら大学時代の講義を思い出させるボリューム感。無論量的ばかりでは無く質的にも密度の高い内容でした。

1日目はコマツ教習所編纂の「伐木等の業務」特別教育テキストを用いた講義。伐木作業に関する基礎知識からチェーンソーに関する知識、振動障害及びその防止に関する知識、そして関連の法令等に関して机上で講義を受けました。

各項目とも重要ポイントをピックアップして講義が進められましたが、特に実践的な伐木造材作業での伐木方法やまだ手を触れた事の無かったチェーンソー関連ではその仕組みや基本操作やメンテナンス等の知識は非常に参考になりました。

2日目はメインのチェーンソーを実際に稼働させての実践指導。保守・点検、ソー部分の装着・取り外し、始動手順、運転・停止、目立て等の基本作業を体験した後、実際に直径1m位の丸太を伐木に見立てて、造材作業として玉切り作業を実践体験しました。

受講して思う事は、何よりも身の安全が第一! その意味でこの基礎かつ実践的な講習が非常に重要な意味を持ち、基本通りに作業を進めれば大きなトラブルは回避出来る事を知った事です。

(文・三橋)



◆「2016 森恋植樹祭」及び東北被災地訪問参加者募集

平成元年に始められた「森は海の恋人植樹祭」も今年で28回目となります。2011年3月に東日本大規模地震・津波により東北の太平洋沿岸は千年に一度ともいわれる大災害に見舞われましたが、この植樹祭は全国からの支援により開催が継続されました。災害から5年が経ち、これから本格的な住民による復興が始められようとしています。



昨年は残念ながら行くことが出来ませんでした。今年是非5年が経った現地を調査するとともに「森は海の恋人植樹祭」に参加して現地の皆さんと一緒に植栽を行いたいと思います。また、オイスカが仙台空港南側の海岸で松原再生を目指してマツの植栽を行っています。この様子も見学してこうと考えています。皆さんの参加をお願いします。(文・荻田)

日 時：2016年6月2日～6月7日(フェリーの都合で1・2日前後する可能性有)

募集人員：2名(1名は地震発生後現地に行ったことのある人、もう一人は行ったことの無い人。希望者が多い場合は抽選とします。)

費 用：3～4万円 交通費・宿泊費は協会(助成金)で負担。飲食費は個人負担とします。

募集期間：2月25日～3月10日 メールまたはFAXで荻田まで申込み願います。

メールアドレス：ogifukurou@nifty.com FAX：011-614-7700

■ 今月の幹事会

出席者：市山・大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・酒井・佐野・高野・釣井・西野(悌)・矢澤・和田

1. 2016年3月、4月スケジュール・・・幹事会 3月4日(金)
2. 親子森林教室2016年4月に向けての準備状況(1/20の打ち合わせ)
森しり隊参加者(親も含む)にはレクレーション傷害保険を網羅して行く
3. 森林・山林多面的発揮機能対策進行状況・・・活動事例報告会2/18かでの2.7で発表
2016年度活動申請予定地： 復興の森、コンサ100年の森、澄川都市環境林、有明第二環境林
4. 「道民の森」運営連絡会の報告・・・2016年度会議スケジュールは1月、4月、7月、10月
協会としては森林保全の実践活動を踏まえ意見提言。会議の内容をフィードバックして会員と共有化を図って行く
5. 斉藤リンゴ園の支援・・・斉藤園主からこの1月をもってリンゴ生産から撤退の報告を受けました
6. 2016年度活動スケジュールの検討・・・3月の幹事会でスケジュールの決定を計る
7. 委員会報告
広報委員会・・・2月から親子森林教室のHP掲載
助成委員会・・・2016年度CGCみどりところの基金にCGC水明郷の森の育林事業申請
冬期セミナーの件
2月17日(水) 札幌市環境局 米森宏子氏 「わたしたちのくらしと生物多様性」
樫棒典夫さん 「森ボラ協議会の活動報告」
3月9日(水) (株)ドーコン 交通事業本部 川北 稔氏 「札幌近郊の地形と地質」
清澤通俊さん 「親子森林教室“森しり隊”のスタートにあたって」
8. その他
 - ・森づくり活動発表会(定山溪中学校)に傍聴者として10名参加
 - ・“森は海の恋人”植樹祭参加者募集・・・応募要項はP3に掲示
 - ・研修旅行・・・西野(悌)さん幹事宜しく願います。
 - ・協会15周年記念事業の準備委員会の立ち上げ・・・3月幹事会で検討
 - ・H27年度消費者教育カタログ化事業でローソン緑の基金の緑化活動に当協会を支援
 - ・1月会計報告

★斉藤リンゴ園の支援活動は協会として2015年度で終了します。12年間、ご支援頂きました会員の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

また斉藤ご夫妻にはご指導への感謝とお疲れ様でしたと申し上げます。

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加数	活動内容
1月19日(火)	澄川	8	A-4 整理間伐(22本)・山間部を通る道づけと圧雪
1月22日(金)	澄川	10	A-4 整理間伐(26本)・チェーンソー班、手ノコ班で枝処理
1月26日(火)	澄川	18	間伐材を集材(ミズナラ、イタヤカエデ、シラカンバ)
1月29日(金)	澄川	11	大径木の間伐材をエンジン付ウインチで集材
2月2日(火)	澄川	16	澄南小3年生マイツリーの観察会
2月5日(金)	ラルズビル	13	定例幹事会
2月8日(月)	澄川	19	E-2 整理間伐・参加者でカンジキ作りの予行演習
2月12日(金)	澄川南小学校	14	4年生(48名)カンジキ作り講習会